

Review for Tokyo, anime Impaction, can be seen at f. 88a 94 & in France at Mr. Oodé Centre
 1st 86, June 1994

インパクション 86

IMPACTION 1994

「差別」と向き合う

特集
 灘本昌久・朴一・富山一郎
 差別と向きあう

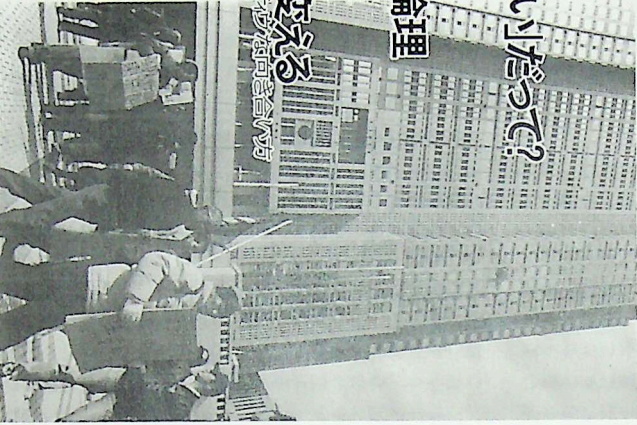
私は差別していないだけ? 崎山政毅

糾弾される側の論理 伊藤公雄

私たちがことばを変えよう 武田春子

泥濘の一石 浜田寿美男

差別を「観」に行く 杉村昌昭



もう一つの発展をめざして
 エコロジー・ザ・ダウ・コスタ
 環境人口・戦争とエコロジー

好評連載 文学非力説の高見順(下)三池田浩士 ジヤンパン・マナーとエコフェミニズムとニ加納 定範 1,200円(本体1,165円) ISBN4-7554-7091-9 C1036 P1200E

gus-frederic@aol.com

インパクション 第86号 1994年6月10日発行

インパクション 第86号 1994年6月10日発行

戦争と放送

竹山昭子著
 放送局の歴史の中で、戦時のもう意味は失せ、電波メ
 テアの戦争責任について検証。 検閲論評・三〇〇円

内なるズリヤ抑留体験

石原吉郎・鹿野、菅季夫
 多田茂雄著 石原、鹿野、菅の戦中・戦後精神史を辿り、
 抑留体験と対峙した魂の記録。 新刊・三〇〇円

ナポレオン・ボナパルト

山正太郎著 自らの生涯をすべた「ロマ」にたとえ
 たナポレオンの劇的な書下ろし伝記。 新刊・八〇〇円

占い師!

霧木まさひろ著 日本列島を縦断取材して、占い師の
 裏面を探った異色ノンフィクション。 大好評・二八〇円

ケルト幻想民話集

小辻梅子訳 ケルト人の間に伝承されてきた
 りを持つ民話を、絵入りで紹介。 現代教養文庫・五二〇円

ケルト妖精民話集

小辻梅子訳 妖精と人間とのつか
 わりを妙に描く幻想世界。 現代教養文庫・五六〇円

ケルト人

果! ヨーロッパ先住民族の神秘と謎
 文字を持たないケルト人の民が残した神秘なま
 に美しい螺旋文様の遺品・遺跡ケルトの精神世界を彷彿とさせる風景
 など多数のカラテ写真を駆使してケルト人の残像をドラマ化する。



呂呂愛・定価五八〇円

社会思想社

〒113 東京都文京区本郷3-25 / 振替東京6-71812 / tel. 03-3813-8101 (代表)

Comune di Padova
 Sistema Bibliotecario
 ALF - SLD
 Sez. 5
 Sottosez. 7
 Serie 7
 Sottos. 1
 Unità 14
 PUV 55

と思っています。

それは今日なお形態は様々であっても、同じ意味をもっている巨大な作用の絶え間ない開始によって、世界に存在し続けている局面です。この時期の分析は私が関わる領域のフェミニズム的分析にとって基本的要素となっています。私の同僚である何人かのフェミニスト研究者は、『資本論』の中で分析されたものを、その時期に生じた、資本主義における女性のアイデンティティ形成の基礎となる他のプロセス——たとえば魔女狩りのような——の分析によって補充したからです。

しかし八〇年代のフェミニストの議論の大部分は、この時代を特徴づけた抑圧／正常化の過程で押し潰されてきました。

私の見解では、湾岸戦争には、なによりもまず戦争とその意味という重大な問題をめぐる議論を再開する効果がありました。そしてこれは女性の注目を集める大きなテーマとなり、政治的イニシアティブの領域となつたのです。残念ながら、湾岸戦争に続く時期は私たちの今日の現実である戦争のエスカレーションを示しています。旧ユーゴスラヴィアにおける戦争は目下のところ、やはり女性の多くのイニシアティブの領域となっています。また環境破壊の問題も、発展と人間—自然の関係の重大な問題、何をどのように、どんな人間関係の中で生産すべきかに関する討論の再開に力を貸しました。

しかしフェミニズム運動はたしかに七〇年代の勢いをもってはいません。むしろ、当時の分析や女性たちのネットワークの遺産が今も残っていると言うべきかもしれません。当時活動していたいくつかのグループが、より若い女性たちの登場によってイニシアティブを作り出しているのです。

暴力の問題も、たとえばいわゆる「バラ色の電話」すなわち女性が救援を求めるためにかけることのできる電話を備えた、暴力を受けた女性のためのセンターのような、大規模なイニシアティブの登場を可能にしました。

しかし私は、イタリアは今、息の長い課題をめぐる議論が再開する新しい局面のはんまりにあるのだと思います。いつはう何年か前から形成され文化的科学的討論の場にも登場する、フェミニストたちの国際的ネットワークの中で展開されている議論は、より活発であるように思われます。そのネットワークは、非常に重要な分析や情報を伝達し、顕著なイニシアティブを發揮しています。私自身も、七〇年代から一緒に仕事をしてきたフェミニストたち、そしてもつと後になつてから知り合ったフェミニストたちとともに、その中で活動しています。これらのネットワークの中には、南北関係、東西関係、そして隣国諸国から遺伝学的操作、戦争、人間—環境の破壊にいたる、今日人類を悩ませるあらゆる重大な問題への大きな注目があります。

4. 「家事労働」とならぶ七〇年代のフェミニズムの重要な発見は、資本だけでなく男性自身が女性を直接に支配し搾取る精神的物質的関係としての「家父長制」であると言われています。この「家父長制」に関するあなたの見解は、イタリアでなされた議論——もしなされたならば、——についてお話しください。

「家父長制」に関する議論はイタリアでの運動の初期、つまり七〇年代初頭には活発でしたが、その後多くの信奉者をえることはありませんでした。七〇年代の初期には、それは、



（左）美子岡田氏（4月8日、東京ブラザグにて）
（右）伊田久美子氏（4月8日、東京ブラザグにて）

あらゆる新しい運動に見られるように、その運動を生じさせた問題、なかでも同性の関係の問題の遠い起源を再発見しようとする要求に一致していました。しかしイタリアではフェミニズム運動は他の運動（労働者、学生等の）もまた広がっていく状況、マルクス主義の文化の強い再興の中で登場したのです。そこには既に

東の国々の現実の社会主義の経験や、国家資本主義としての経済形態の解釈への批判が存在していました。同様にマルクス主義の遺産の解釈におけるさまざまな進展がなされましたが、その中でももつとも重要なのが、他でもなく（労働時間の思い切った短縮の要求をもたらした「労働の拒否」と、労働者層による「社会的富の奪還」の理論でした。それは資本主義の歴史全体を通じて労働者の（そして私たちが述べたように主婦の）労働によって形成された富の力をすべての人々のために奪還するということでした。

そのころ市民のための無料の、あるいは安価な、もつと広範で質のよいサービスシステムが要求されるだけでなく、所得保障の要求が、討論の中心となつたのは、偶然ではありません。これらの課題をめぐる闘争は、社会的状況の中でますます拡大していきました。そして、そうした状況のなかで、私たちは無償の家事労働と、その資本主義的發展における位置づけについての分析を提唱し、家事労働への資金（もちろん、それとともに労働時間の大幅短縮と安価で質のよいサービスシステム）を要求したのは偶然ではありません。

この理論的—実践的企ては体制内左翼に典型的な「労働イデオロギー」に対する根本的の分岐点を形成しました。体制内左翼は女性の問題に関しては、古典的マルクス主義の用語で、唯一の解放の形態として、女性たちに外へ働きに出ることを

提案し、主婦の地位を「後進性」とみなしていました。

イタリアでは、当時からフェミニストの議論は総体的に家事労働への賃金要求が焦点となっていました。この要求に賛成か、反対か、私たちが望むだけの賃金を手に入れるため、そして同時に、私たちの闘争を通じて労働の機構の根本的変革を作り出すための闘争や抗議の形態について、議論がなされてきました。なぜなら、「家事労働への賃金」は目的であるだけでなく、むしろ、ものの生産に対して、個人再生産を優先して、発展の用語に対抗しうる新たな展望であったからです。したがって、この時代——七〇年代——に書かれたフェミニストの論文は行動の目的性に、そして同時に理論的運動的議論に密接に結びついていたのです。

一方、家父長制についての議論は、早々に陰に隠れてしまいか、あるいはイタリア・フェミニズムのもうひとつの精神である、アメリカ合衆国起源の「自我の確立」として存在していました。

ともあれ家事労働への賃金の領域をめぐる理論的・実践的討論は、さらに国際的レベルで広がっていきました。なぜなら七〇年代初め以後、その組織的・理論的活動に課せられた課題の次元は、世界中にますます広がっていったからです。

5. あなたが現在関心をもつておられる問題についてお話し下さい。

私の当時の関心と現在のそれとの間に中断はないと思います。基本的に、さまざまな問題に対する理論的アプローチの連続性を保ってきたと思います。私は、現在の発展の内部で女性の問題が決定的に重大なものであり続ける国際的議論の状況の中で活動しています。したがって、私たちが生きている現在の発展の形態から別の形態への移行を見いだすことに理論的実践的のどつやつて貢献すればよいのかを考えています。それによつて女性、および現在の発展によつて（多くの意味において）生活がますます貧困になっていくばかりであるすべての人々のおかれた状況を根本的に変えていくことを目指しています。戦争、市民生活と文化の軍国化、環境の破壊、貧困、人類に対する様々な形態の犯罪の拡大、これらはすべて、私たちが生きている現在の発展の局面をますます特徴づけています。そしてこれらのことすべてが私にとつては調査、研究の領域なのです。それらはすべてが密接に結びついています。

私はまた、女性の人権の領域でも活動しています——私はバドヴァの人権専門校で教師をとつています。——人権というものはたしかに解決ではありませんが、しかし女性の組織や運動がそれを用いることができるならば、くりかえし強力な手段となりうるからです。

ありがとうございました。

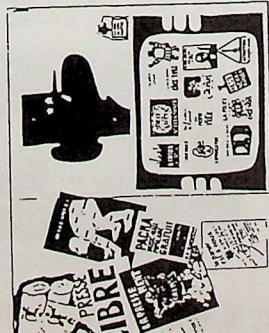
アンテルナルシオナル・シチュアシオニスト第1回配本

① 状況の構築へ

定価4120円 (税込)

シチュアシオニスト・インターナショナルの創設

木下誠監訳・解説・小倉利丸・杉村昌昭・木下誠



▶ 1988年から1989年にかけて刊行された「アンテルナルシオナル・シチュアシオニスト」誌全12巻全文を8分冊に分けて翻訳発行。
▶ 美術、映画、文学、建築、都市計画、日常生活、広告、政治、戦争、思想など多岐にわたる本質は、現代の思想的プロブレマティクスの宝庫である。
▶ 充実した解説と監訳者による年表・関連文献の紹介で、80年代の最もラディカルなヨーロッパの思想動向が浮かび上がる。
▶ 系統の解説チームで、4ヶ月に1冊、2年で完結する。

● 新刊

学校という交差点

岡村達雄・尾崎ムゲン編著 税込2730円
学校をオーブンなものにせよ。人間であることの自由な精神と生き方を損なわないようにせよ。フリースクールや塾、子どもたちの権利条約、国際化など、本書には学校をめぐる論じられるべき核心がある。

● 5月刊
ノンセクト

「無党派」という党派性

天野恵一著 税込2575円
運動の体験を思想化する！ 我々はどううか。「インパクション」誌連載時から注目を集めた、著者輩年のライフワーク遂に刊行。

● 6月刊

就「フェミニズムがなかったら

1970年代、女を生きる
加納実紀代著 税込2400円
リブで幕を明けた70年代は、女たちにとつてどんな時代だったのか。働くこと、子育て、母性、男社会を問うなかから、90年代の女の生き方を問う。

カンナニ

湯淺克衛植民地小説集
植民地朝鮮と内地の間で歴史を生き抜いた作家・湯淺克衛の全貌を明らかにする最初の作品集。池田浩士編集・解説。呈内容見本・10300円

インパクト出版会

東京都文京区本郷2-30-14 (発売: イザラ書房)
TEL 03-381-7576 FAX 03-381-8676